

早池峰フォーラムで報告

12月5日（日）盛岡駅前の立派な施設で開催される、早池峰フォーラム実行委員会主催の第23回早池峰フォーラムにおいて、東北森林管理局のシカ対策を報告する機会を頂いた。

過去の資料も参考に、移入植物駆除活動や植生保護柵の設置などの巡視活動について、グリーンサポートスタッフによる活動について、シカ対策の中間成果についての3点について報告しようとしたが、行政主催の早池峰関連の各種会議での論点や対策についても皆で考える良い機会と捉え、自分なりに「早池峰山利用の論点と対応私案」を整理・提示した。

トイレ問題では、これまで大変な苦勞をされ担ぎ下ろしをされてきたものを、「バイオトイレの設置」と簡単にかたづけられて良いのかという思いもある。宿泊を制限している頂上避難小屋の宿泊については、賛成意見もあったが、そもそも避難小屋は頂上にある必要がないので場所を変更できないかという意見も出された。

行政だけでは分からない、みんなの思いを伝え考える場としてフォーラムが機能している。

岩手県立大学の渋谷教授による基調講演「早池峰における持続可能な開発目標と諸活動」では、OECD、Eco-DRR、ランドスケープアプローチなど一般の方には馴染みのない用語が紹介され、勝手に懐かしがっていた（前職は環境省）。

SDGsがやっと人口に膾炙するようになったが、流行語で終わらないか心配だ。ユネスコエコパークに向けての思いを伺ったが、正直こっちは知られていない。大学生と思われる参加者もいたが、彼ら彼女らの考えはどうだったのだろうか。

花巻市の環境審議会でもご一緒している渋谷教授と自然公園保護管理員でシカの食害に詳しい八重樫さん、植生保護柵の設置でアドバイスを頂いている岩手県立博物館の鈴木博士、会議やフィールドでご一緒する県自然保護課の小山課長、フォーラムの中嶋さん達、それに若い力、こういった方々と早池峰について今後も考えていきたい。

出来れば早池峰の麓の自然の中で。

